

目標は見た！あとはチームワークと実行力あるのみ。

地域再生には、地域をどうするかという住民自身の強い思いと決意がなにより重要です。

特に、継続的な活動には、前向きに取り組む意欲が重要であり、それを引き出すことが地域活性化の成否を決めるといっても過言ではありません。

では、地域住民が主体的に地域再生に取り組むためには、どうしたら良いのか？

住民を巻き込み、かつ住民自身が主体となって地域再生に取り組むワークショップを多数成功させている情報工房の山浦晴男氏が指導する『地域再生ワークショップ』を徳島県で実施しました。

主催者である徳島県は、地域再生を行う住民の人材育成と具体的な地域において、住民自身が地域活性化を図るために、地域資源の発掘から、それを元に地域再生を図る実行計画（何を、いつだれが、行うかを定める）づくりを促進するための研修会として開催しました。

本地域再生のワークショップは、KJ法の特徴である多くの断片的なデータを統合して、創造的なアイデアを生み出し、問題の解決の糸口を探ってゆく過程を経て、自分たちで考え、課題を共有する、さらに結論を投票によって決定するという知的創造性あふれた共同作業を行うことにより、参加した地域住民は、地域の課題を自分のものとして消化し、地域再生への情熱を他者（仲間）と共有し共感を得ることで、やる気が醸成されました。



平成25年度 徳島県 都市農村共生・対流推進事業ワークショップ研修会 実施報告書

1 研修の目的

農山村地域は、過疎・高齢化の進展により地域の活力が低下する一方、都市地域においては、農山漁村が持つ豊かな自然や「食」に対するニーズが増大している。

本年度、農林水産省において、「都市農村共生・対流総合対策交付金」が創設されましたことから、徳島県では、地域の手づくり活動の推進を図り、農村地域の活性化やコミュニティの再生に資するために、これらの活動に取り組む「集落連合体」（農村集落と市町村、NPO等が連携した協議会）を育成・支援を目的に、農村地域が持つ自然や食などの「資源」を再発見し、活用する方法を検討するワークショップ研修を開催することとした。

2 日時及び開催場所

①事前調査：平成25年12月2日（月） 13：30～17：30

阿南市加茂谷地区

②第1回：平成25年12月3日（火） 13：30～17：30

阿南市加茂谷公民館 大ホール（阿南市加茂町野上22-11）

③第2回：平成25年12月24日（火） 13：30～17：30

徳島県立農林水産総合技術支援センター 大会議室（石井町石井字石井1660）

④第3回：平成26年1月29日（水） 13：30～17：30

徳島県立農林水産総合技術支援センター 大会議室（石井町石井字石井1660）

3 内容

①事前調査：阿南市加茂谷地区の写真取材及び「外から見た資源写真地図」作成

②第1回：阿南市加茂谷地区の「外から見た資源写真地図」について

③第2回：各地区の「資源写真地図」の作成・検討

④第3回：各地区の「資源再生メニュー」の作成・検討

4 対象者

(1) 農山漁村の自然や「食」を活用した活動に取り組もうとする集落及び組織

(2) 関係機関（県、市町村、JA等）

5 受講の条件等

(1) 3回の研修及び自主演習に継続して参加できること。

(2) 集落・組織毎に班に分かれて各地域の資源や活用方法を検討するため、

集落・組織からは5名以上、継続参加できること。

(3) 関係機関の職員は、各班のファシリテーター（進行役）又は集落・組織の構成員として演習に参加すること。

5 主催者及び講師

主催者：徳島県農林水産部 農村振興課 農村・鳥獣対策担当

講師：(有)情報工房代表取締役 山浦晴男、(一財)都市農山漁村交流活性化機構 審議役 茅原裕昭

| | 日時・場所 | 時間 | 内容 | 講師等 |
|------|--|---------------|---|---|
| 事前調査 | 平成25年1月2日 (月) 阿南市加茂谷地区 | 13:30 ~ 17:30 | 講師が阿南市加茂谷地区の写真取材を行い、第1回ワークショップの「外から見た資源写真地図」を作成 | 「加茂谷元気なまちづくり会」、県、関係機関が現地案内 |
| 第1回 | 平成25年1月3日 (火) 阿南市加茂町野上 阿南市加茂谷公民館大ホール | 13:30 ~ 17:30 | ○開講式・オリエンテーション | 県農村振興課 |
| | | | ○「都市農村共生・対流総合対策交付金」について | 県農村振興課 |
| | | | ○第1回ワークショップ研修 ①加茂谷地区の「外から見た資源写真地図」について ②「意見地図」の作成 ③「意見地図」の評価 ④次回までの宿題「写真撮影」について | (有)情報工房 代表取締役 山浦 晴男 (一財)まちむら交流機構 審議役 茅原 裕昭 |
| 自主演習 | 第1回WSから第2回WSの間 | | 参加者が自ら地域の写真取材等を行う | |
| 第2回 | 平成25年1月24日 (火) 石井町石井徳島県立農林水産総合技術支援センター大会議室 | 13:30 ~ 17:30 | ○オリエンテーション | 県農村振興課 |
| | | | ○第2回ワークショップ研修 ①各自の写真取材から「資源写真地図」の作成 ②「資源写真地図」の検討 ③次回までの宿題「地域を元気にするアイデア出し」について | (有)情報工房 代表取締役 山浦 晴男 (一財)まちむら交流機構 審議役 茅原 裕昭 |
| 自主演習 | 第2回WSから第3回WSの間 | | 参加者が各自「イラストアイデアカード」を作成 | |
| 第3回 | 平成26年1月29日 (水) 石井町石井徳島県立農林水産総合技術支援センター大会議室 | 13:30 ~ 17:30 | ○オリエンテーション | 県農村振興課 |
| | | | ○第3回ワークショップ研修 ①各自の「イラストアイデアカード」から「地域再生メニュー地図」の作成 ②「地域再生メニュー」の検討・評価 ③実行計画案の作成 | (有)情報工房 代表取締役 山浦 晴男 (一財)まちむら交流機構 審議役 茅原 裕昭 |
| | | | ・閉講式 | 県農村振興課 |

徳島県 都市農村共生・対流 第1回ワークショップ

阿南市加茂谷公民館 大ホール（阿南市加茂町野上 22-11）

平成25年12月2日（月）から平成25年12月3日（火）まで

講師による事前調査と第1回目となるワークショップを実施した。

12月2日（月）の事前調査では、ファシリテーターが、阿南市加茂谷地区地域を写真取材（写真撮影と聞き取り調査）し、外部の視点で地域の特徴をとりまとめました。

ワークショップ研修会・ファシリテーターが行う事前調査について

（外から見た地域の写真分析図）を作成するために

- ・ファシリテーターは、外の目から地域を見る役割も担うため、ワークショップの開始に先立ち、現地を調査する。（12月2日（月）午後）
- ・地域再生には、地域内の住民だから気がつく事柄と、当事者には、見えない（当たり前すぎて）地域のよさや改善点などの両方の目線が重要だから、外からの目としてファシリテーターが地域の概要を把握するものである。
- ・第1回目のワークショップのはじめに、「外から見た地域の姿」と題して写真分析した図で説明を行う。
- ・最初に地域の概要を市町村等地元関係者から説明を受ける。
- ・市町村要覧やパンフレット等により人口構成、産業等の地域状況を把握する。
- ・また5万分の1の地図等で当該地区の地理的状況も把握する。
- ・調査は、地域全体を俯瞰できる箇所を眺望するほか、地域代表者からの話を聞いたり、写真取材を行う。
- ・調査時間は2時間程度が目安
- ・事前調査において、ファシリテーターはデジタルカメラで撮影し準備された写真取材の写真はパソコンとプリンターで印刷し「外から見た地域の姿」を作成する。時間は4時間程度。
- ・なお、ファシリテーターによる「外から見た地域の姿」の作成作業を行うため、事前調査の後と翌日の午前中の時間帯に写真分析の作業を実施。

平成25年12月2日（月）加茂谷地区の事前調査を実施



那珂川の流域にある加茂谷集落 川の南岸（正面）はカルシウムが豊富な土壌、水が綺麗で、カタツムリの宝庫



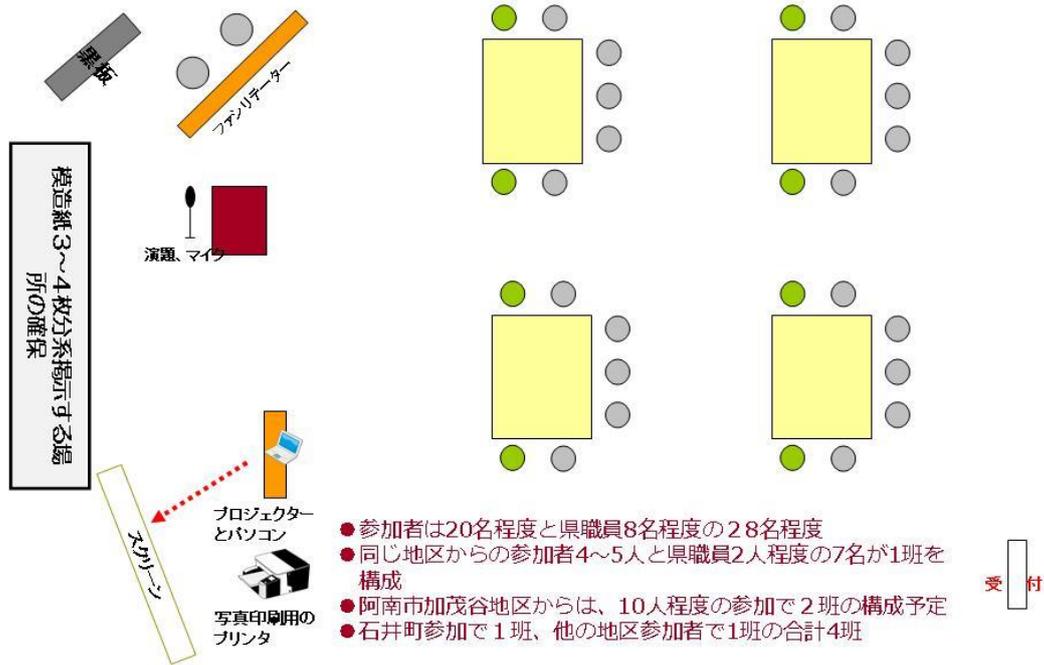
果樹や野菜のハウス栽培が盛ん



四国遍路道、20番、21番の行程にあり、お接待の文化がいまも息づく。

12月3日（火）の第1回ワークショップは、ファシリテーターから、「外から見た資源写真地図」を解説し、地域再生のためのワークショップの進め方を説明（課題抽出、意見交換、地域再生のアイデアの発出、意見のまとめ方等）を行い。「農村地域の抱えている悩み、課題、将来像」をテーマに、意見交換、意見地図の作成を全員（約40名）で実施しました。

徳島県 都市農村共生・対流総合対策交付金『地域再生手法を学ぶ』ワークショップ
会場レイアウト(案) 第1回13:00~17:00



【抽出された問題点等】

| | | |
|-----|------------------------|-----|
| 1位 | 働く場所不足による若者の流出 | 83点 |
| 2位 | 農業の後継者が完全になくなる心配 | 45点 |
| 3位 | 空き家を利用したUターンの促進 | 39点 |
| 4位 | 若者が働ける農業になっていない | 36点 |
| 5位 | みんなのための、あまった農産物の売り場づくり | 34点 |
| 6位 | 利用されない農地の抜本的な対処 | 33点 |
| 7位 | 地域コミュニティの維持 | 25点 |
| 8位 | 産直市を利用した活性化 | 20点 |
| 9位 | Uターン人材の確保 | 19点 |
| 10位 | 少子化が問題 | 18点 |



ワークショップを実施した阿南市加茂谷公民館



ファシリテーターと県職員で作成した外から見た加茂谷地区の写真分析図



「農村地域の抱えている悩み、課題、将来像」の分析内容を確認し重要度を投票する参加者

第1回ワークショップの皆さんの感想

- ・それぞれの地域で抱えている問題は、根本は同じであるが、少しずつ考えていることが違うということを感じました。行政待ちの時代の終焉を自覚しないといけないことを、より一層感じました。リーダー的人材と外からの力をあわせ、一次産業を終わらせないことを、考えたいと思いました。
- ・同じ町内でも異なる意見、似たような地域でも異なる意見、問題が共有され、有意義な時間となった。ひとりで考えるよりも、できるだけ多くの人と意見が交換、シェアできると、よりよい効果があると思った。
- ・問題点の提起はできたが、解決策、将来像が見えてこない。今後の展開が読めない。今後の展開に期待します。
- ・今回初めて参加させていただき、地域でのそれぞれいろいろな思いをもっていることがわかった。これを機会に、いろいろな意見を聴かせていただき、今後の取組みにいかしていきたいです。
- ・多くの人の意見が大切であった。意見を出し合うことがよかった。
- ・手法として勉強になった。

徳島県 都市農村共生・対流 第2回ワークショップ

平成25年12月24日（火） 13:30～17:30

徳島県立農林水産総合技術支援センター大会議室（石井町石井字石井1660）

第2回目となるワークショップは、前回の振り返りの後に、阿南市加茂谷地区、A、B班、海陽町班、阿南市土成町班の4つの班に分かれて各自が撮影した地域資源の写真を分析し地域資源マップを作成しました。

地域資源の写真を類似性のあるものに16～25まで分類し、それらの写真の関連性を検討しつつ模造紙に貼り、その写真に対して、地域資源の特徴、課題、可能性等を踏まえながらも解説文を記入します。

続いて、他の写真との関連性を考えながらグループ化を検討し、原因と結果、相反・対立関係、循環、発展性等の関係性を意識して、地域資源から地域の特徴を明らかにしました。

写真撮影ができなかった資源、文化等は、インタビューによりグループ内の会話を促進させつつ、資源の連携、有効活用への気づきを促進させるのが有効です。



【資源地図を作成する様子】



【阿南市加茂谷地区 A班の資源地図】



【阿南市加茂谷地区 B班の資源地図】



【海陽町 班の資源地図】



【阿波市土成町 班の資源地図】



【写真分析資源地図の内容を発表する様子】

第2回ワークショップの皆さんの感想

- ・第1回ワークショップで目からうろこが……といった状態で、とまどいもありましたが、関心もさせられました。今回は、実際に作業をしてみて、課題・問題点がかなり明らかになった。以上から、次回の宿題を書くのが、少しばかり楽しく思えるようになった。
- ・ないものねだりでなく、あるもの探しの大切さを認識しました。
- ・資源探して写真を撮った時点では、バラバラだった町の部分（自然、文化、特産 etc.）が、地図を作っていく上で、だんだんつながりが見えてきた。生活している中で、気づかないところが、意外にもつながってくるのだと、今回のWSでは発見がありました。

徳島県 都市農村共生・対流 第3回ワークショップ

第3回：平成26年1月29日（水） 13：30～17：30

徳島県立農林水産総合技術支援センター大会議室（石井町石井字石井1660）

第3回目となるワークショップは、前回の振り返りの後に、阿南市加茂谷地区（A、B、C）班、海陽町班、阿南市土成町班の3つの班に分かれて作業を実施しました。

先ず各自が作成した地域活性化アイデアカードを元に地域の再生を行うための取り組みを各自投票で選び、投票数の多いもの10項目を抽出しました。

さらに抽出した10項目の活性化アイデアについて、取り組みの難易度、必要性の優先度、取り組み主体が住民か、行政か、協働で行うか、また、いつ取り組むのかを討論し実行計画を作成しました。

そして、代表者が各班のアイデア、取り組みへの実行計画の討議の結果を発表し3回にわたる地域再生への資源発掘からアイデアの創出、いつ、誰が実行するかの実行計画の作成の一連の作業を終えました。

現在実施している取り組みの更なる発展や、次なる行動への意欲で盛り上がるチームもありました。



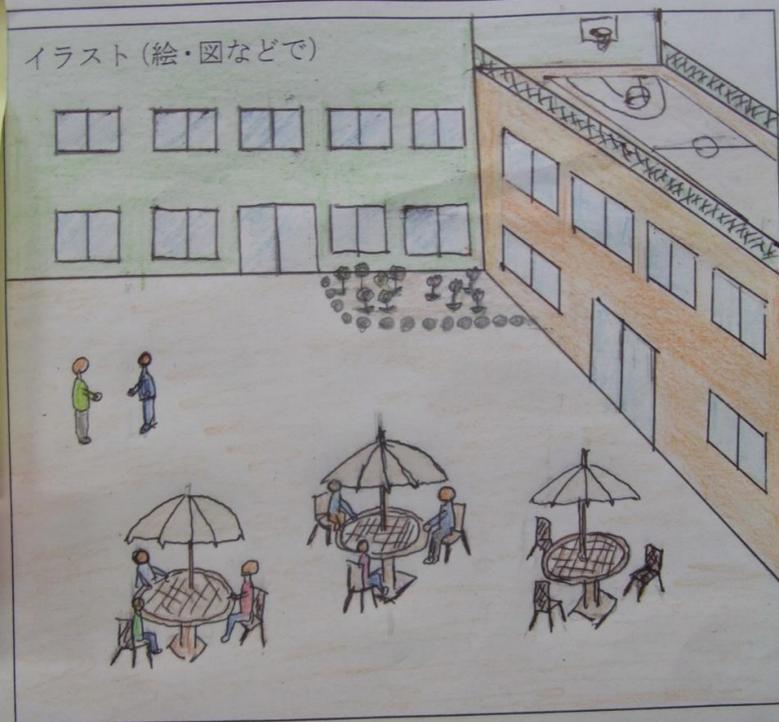
【地域再生のためのアイデアカードを班で説明する様子】



【阿波市土成地区のアイデアカードのまとめと実行計画討議結果を発表する様子】

表題 (タイトル): I.Uターン者向けコミュニティ施設

イラスト (絵・図などで)



説明文: I.Uターン者の住居兼意見交換の場

としての施設。テラスでは、地元の住民にも開放。

移住者の移住先での住居の不安、コミュニティーの不安をかいけつする。

【海陽町のアイデアカードの内容】



【阿波市土成地班のアイデアカードをまとめた様子】

| No. | 氏名 | アイデア | 期待度 | 評価 | | | 住民 | 協力 | 行政 | 着 | 備考 |
|-----|----|--------------|-----|----|---|---|----|----|----|---|--------|
| | | | | 知 | 中 | 至 | | | | | |
| 1 | N | 加茂谷HP立ち上げ | C | ● | | | ● | ● | | 1 | |
| 2 | X | ネット活用による活用 | B | | ● | | ● | ● | | 2 | NPOの活用 |
| 3 | Y | 加茂谷産直市 | B | | ● | | ● | ● | | 5 | |
| 4 | あ | 加茂HPネット活用 | C | ● | | | ● | ○ | | 2 | 生産者の活用 |
| 5 | o | 小学校起ち直しネット活用 | C | ● | | | ● | ● | | 4 | |
| 6 | P | 産直 | C | ● | | | ● | ● | | 3 | |
| 7 | い | 遊休地へ入制度 | B | | | ● | ● | | | 6 | NPOの活用 |
| 8 | T | 小学校起直し産直産直 | A | | | ● | ● | ● | | 8 | |
| 9 | う | 小学校起直し産直産直 | A | | | ● | ● | ● | | 8 | |
| 10 | V | ①2016年産直産直 | B | | ● | | ● | | | 7 | |

【加茂谷地区の実効計画図】



【海陽町班のアイデアカードをまとめた図】

第3回ワークショップの皆さんの感想

- ・本ワークショップを通じて地域の課題の洗い出しは大変勉強になりました。結果を無駄にしないようにした

いと思う。

- ・地域を担うメンバーが集まり活発な意見交換された。言うは易し実現には、かなりのパワーが必要だ。一つ一つ目標を定め、期限を設けてこなしていかなければと痛感している。
- ・3回のワークショップで考えが徐々にまとまり、目標が見えてきた。あとはチームワークと実行力あるのみ。
- ・形が見えてきた。今後は、組織作り、動きを見せることがアピールになる。地域住民にどうアピールするかが課題。
- ・自分たちの考えが共有できたのが良かった。実施に向けて頑張ってきた。
- ・はじめのうちはどうなるか不安があった。個人個人思いや考えがよく分かった。今後の取り組みが見えてきた。
- ・実行計画はできた。具体的に形を実現するのは大変だと思うが実現に向けて頑張りたい。
- ・地域には、魅力があると信じて、あきらめずに成功するまで続ければ成功するだろう。
- ・優先順位の確認で、これから何をすべきなのかを再認識することができた。非常に勉強になった。
- ・方向は決まった。これからは大変だが、必ず実績を残す。
- ・あらためて地域には、たくさんの自然資源があることを再認識した。これを地域活性化に役立てたい。これから自分ができることを少しずつも取り組んで行きたい。
- ・町内エリアごとにワークショップを行えば、アイデアももっとでるだろう。まとめるのは大変だが、住民が自分たちで地域のことを考える、良い方向に動いていくきっかけとなると思う。
町内で今回のようなワークショップを展開すれば、過疎からの脱却になりおそうだ。
- ・十人十色、いろいろな意見、異なる目線があることに気付いた。町の意見やアイデアを形にして、意見交換、共有していくことが大事だと思った。
- ・色々なアイデアを話し合うと、さらに良くなった。難しいプランもイベント等を足掛かりにできることも勉強になった。
- ・地域資源の見直し、さらに優先順位のつけ方等勉強になった。